

【今日の説教から】

「今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており、キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを、わたしの肉体をもって補っている。」獄中にあるパウロのさらなる決意が記されています。

この自分の体をもって、キリストの身体である教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを補っている、苦難を喜んでいる…。獄の中で、またさまざまな苦難の中でその意味を考え進むパウロが至った答えであろうと思います。

私たちは出来れば苦難を避けたいと思います。そのように祈りもしていると思います。しかしここにあるこの言葉に目を留めましょう。

「今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており」…。

パウロも出来れば苦しみを避けたかったに違いありません。そしてイエス様でさえ、ゲッセマネの園にて出来ることならこの苦き杯を取り去ってくださいと祈られました。しかし、このしみにより目の前にいる人々が救われるのならば、自分の苦痛は喜んで受ける、それが教会の体のために自分の体を捧げるという事なのだと思います。目の前にいる人を助ける、それはどうやってもたらされるかと言えば、それが具体的には「神の言を告げひろめる務」です。

「この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。」

先日は警報級の大雨がありました。また最近をよく雷の音を聞きますが、皆様ご無事でお元氣にお過ごしでしたでしょうか。

静岡の方で日本での史上最大の竜巻の被害があったと聞きます。復興が守られますようにと祈りましょう。

さてパウロの獄中書簡のコロサイ書も今日で1章の締めくくりです。

パウロの願いは、教会に集う人たちの成長と福音宣教の前進でした。

1:19 神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、

1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

1:21 あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。

1:22 しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下に

あるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

キリストイエスの十字架の犠牲というものは、必要があったからなされたのであり、必要のないものであればわざわざ御子は人となってこのより降り立って、十字架につくことはなかったでしょう。しかしキリストは私たちのために、その罪を贖うために人として来られ、私たちの身代わりとして、罪あるものの代表となってその肉を十字架につけ、死にて葬られ、よみがえり、もはや私たちが自分のなくの思いによってでした生きられないのではなくて、キリストにあって、共に肉において死に、復活して霊の導きによって生きることが出来るようにと私たちを救ってくださいました。

私たちは依然として古き肉の性質、神のことを思わないで人のことを思う性質の中において葛藤するのですが、神様の導きによって引っ張っていただき、正しい行いを選び取ることが出来ると信じています。ここに人の癒された歩みがあります。一人一人が自分の思うがままに生きるのではなく、うちに生きていらっしゃる聖霊の導きにより、神様のお導きに従って生きる道が開かれているのです。それは私たちにとっての苦しみではなくて望みです。

1:24 今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており、キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのお足りないところを、わたしの肉体をもって補っている。

苦難を喜んで受けるという事は非常に困難なことかと思いますが、「あなたがたの」ためならば、苦難をも喜んで受けようという親心、愛の心なのです。これがまた私たちの主イエスキリストの愛の心でもあります。主も、この苦き杯を取り除いてくださいとも祈られましたが、私たちのためにその尊い命を捧げてくださいました。「あなたがたのためならば」苦難をもいとわないという思いを私達も求めたいと思います。私たちの周囲の方々の救いのためならば、私たちが受ける苦難と引き換えに、周りの方々が永遠の救いに入るのならば、私たちの苦難は報われるのです。

私たちの体の痛みをもって教会の体に仕えるのです。イエス様も、この贖われた教会のためにご自身の体を捧げてくださいました。その捧げた一人の体により、大きな体が形成されるのです。命が増え広がるのです。

1:25 わたしは、神の言を告げひろめる務を、あなたがたのために神から与えられているが、そのために教会に奉仕する者になっているのである。

1:26 その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされたのである。

1:27 神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光

の望みである。

「異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるか」！！

キリストを知らなかったときに、このような恵みがあることをどうして想像していたことでしょうか。富んでおられた方が、神の御子であるにもかかわらず、貧しくなって私たちを本当に愛してくださったのです。

1 ペテロ 2:16 自由人にふさわしく行動しなさい。ただし、自由をば悪を行う口実として用いず、神の僕にふさわしく行動しなさい。

2:17 すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊びなさい。

2:18 僕たる者よ。心からのおそれをもって、主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい。

2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。

2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

この私たちの奥義、ミステリー、秘密こそ、イエス・キリストご自身です。

1:28 わたしたちはこのキリストを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人を訓戒し、また、すべての人を教えている。それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである。

1:29 わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力により、苦闘しながら努力しているのである。

この方をどんな時にもお伝えすること。目の前にいる人たちのために、自分が軽んじられようとも、理解されなくても、失礼をされようとも、愛し、仕え、その人のために苦難を喜びとする心。それがキリストにある生き方です。そしてその生き方こそ奥義であり、そこにはキリストが確かにおられ、そこには希望があるのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

獄の中にあっても「あなたがたのために苦しむことを喜び」と、また、「キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています」と語るパウロの姿に、愛して仕える者の迫力を感じます。その変わることのない底力はやはりイエス様にあるのだと教えられます。「秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。」どうかこの希望が広がりますように。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン